2020年度　授業要覧

幼児教育学科（2年生）

九州大谷短期大学

（４）幼児教育学科　履修単位表（2019度入学）

	開講科目名	担当教員	種別	単位数	卒業必修・選択	資格				１年		２年		備　考
						幼稚園	保育士	保育心理士	社会福祉主事任用	前期	後期	前期	後期	
人間の基礎	人間学Ⅰ	ｸﾗｽ担当者	講義	1	①					○				御命日勤行を含む
	人間学Ⅱ	ｸﾗｽ担当者	講義	1	①						○			御命日勤行を含む
	人間学Ⅲ	ｸﾗｽ担当者	講義	1	①							○		御命日勤行を含む
	人間学Ⅳ	ｸﾗｽ担当者	講義	1	①								○	御命日勤行を含む
	自己との出会い	別に定める	演習	1	①		①			○				
	社会との出会い	別に定める	演習	1	①		①						○	
	人権論	牛島(修)	講義	2	②		②						○	
生活の基礎	キャリアデザインⅠ	梅野ほか	演習	1	①					○				
	キャリアデザインⅡ	梅野ほか	演習	1	①						○			
	キャリアデザインⅢ	梅野ほか	演習	1	1							○		
	仏教音楽Ⅰ	樋口	講義	1	1					○				
	仏教音楽Ⅱ	樋口	講義	1	1						○			
	親鸞入門Ⅰ	青木	演習	1	1						※			※東本願寺研修１
	親鸞入門Ⅱ	青木	演習	1	1								※	※東本願寺研修２
	日本国憲法	中村(保)	講義	2	2	②	2				○			
	心理学	徳本	講義	2	2		2						○	
	情報処理Ⅰ	PCﾜｰｸｽ	演習	1	1	①	1			○				
	情報処理Ⅱ	PCﾜｰｸｽ	演習	1	1	①	1				○			
	英語Ⅰ	ﾍﾞﾝｶｰﾄ・塩塚	演習	1	1	①	1			○				
	英語Ⅱ	ﾍﾞﾝｶｰﾄ・塩塚	演習	1	1	①	1				○			
	英語Ⅲ	ﾍﾞﾝｶｰﾄ	演習	1	1							○		
	英語Ⅳ	ﾍﾞﾝｶｰﾄ	演習	1	1								○	
	書道Ⅰ	下川	演習	1	1					○				実用ﾍﾟﾝ字
	書道Ⅱ	下川	演習	1	1						○			実用ﾍﾟﾝ字と実用書道
	書道Ⅲ	下川	演習	1	1							○		毛筆実技
	書道Ⅳ	下川	演習	1	1								○	毛筆実技
	華道Ⅰ	市岡	演習	1	1					○				華道資格
	華道Ⅱ	市岡	演習	1	1						○			華道資格
	華道Ⅲ	市岡	演習	1	1							○		華道資格
	華道Ⅳ	市岡	演習	1	1								○	華道資格
	保健体育	安藤	講義	1	1	①	①				○			
	体育実技	永利・安藤	実技	1	1	①	①			○	○			
専門科目	子どもと健康	永山	講義	1	①	①	1			○				
	子どもと人間関係	宮地	講義	1	①	①	1				○			
	子どもと環境	村上	講義	1	①	①	1				○			
	子どもと言葉	吉栁	講義	1	①	①	1			○				
	子どもと表現	橋本・樋口・恒賀	講義	1	①	①	1			○				
	保育内容の理解と方法Ⅰ	樋口　他	演習	1	①		①			○				
	保育内容の理解と方法Ⅱ	橋本・樋口・恒賀・吉栁	演習	1	①		①				○			
	保育内容の理解と方法Ⅲ	橋本・樋口・恒賀・吉栁	演習	1	①		①					○		
	保育内容の理解と方法Ⅳ	橋本・樋口・恒賀・吉栁	演習	1	①		①						○	
	音楽表現技術	樋口・山田	演習	1	1		1			○				
	音楽実技Ⅰ	樋口　他	演習	1	1		1				○			
	音楽実技Ⅱ	樋口　他	演習	1	1		1					○		
	音楽実技Ⅲ	樋口　他	演習	1	1		1						○	
	造形表現技術	恒賀	演習	1	1		1			○				
	身体表現技術	橋本	演習	1	1		1			○				
	保育者論	宮地	講義	2	②	②	②				○			
	教育原理	山田	講義	2	②	②	②				○			

	開講科目名	担当教員	種別	単位数	卒業必修・選択	資格				1年		2年		備考
						幼稚園	保育士	保育心理士	社会福祉主事任用	前期	後期	前期	後期	
専門科目	保育の心理学	岡田	講義	2	②	②	②			○				
	子ども家庭支援の心理学	牛島(弘)	講義	2	2		②						○	
	子どもの理解と援助	河村	演習	1	1		①				○			
	教育・保育課程論	山田	講義	2	2	②	②					○		
	保育内容総論	増田	演習	1	1	①	①			○				
	保育内容・健康	永山	演習	1	1	①	①					○		
	保育内容・環境	村上	演習	1	1	①	①					○		
	保育内容・人間関係	宮地	演習	1	1	①	①					○		
	保育内容・言葉	吉栁	演習	1	1	①	①				○			
	保育内容・表現（音楽）	樋口	演習	1	1	①	①					○		
	保育内容・表現（造形）	恒賀	演習	1	1	①	①					○		
	教育方法論	山田	講義	2	2	②	2						○	
	子育て支援	岡田	演習	1	1		①	①					○	
	子ども理解と教育相談	徳本	講義	2	2	②	2					○		
	臨床心理学（特講）	河村	講義	2	2		2	②			○			
	教育・保育実践演習	徳本	演習	2	2	②	②						○	
	教育実習指導Ⅰ	恒賀・永山・橋本	演習	1	1	①					○			
	教育実習指導Ⅱ	永山・恒賀・橋本	演習	1	1	①						○	○	
	教育実習Ⅰ	恒賀・永山・橋本	実習	2	2	②					○			
	教育実習Ⅱ	永山・恒賀・橋本	実習	2	2	②							○	
	乳児保育Ⅰ	吉栁	講義	2	2		②					○		
	乳児保育Ⅱ	吉栁	演習	1	1		①						○	
	子どもの保健	小川	講義	2	2		②	②		○				
	子どもの健康と安全	小川	演習	1	1		①				○			
	子どもの食と栄養Ⅰ	内村	演習	1	1		①			○				
	子どもの食と栄養Ⅱ	内村	演習	1	1		①				○			
	保育原理	宮地	講義	2	2		②		②	○				
	社会福祉	中村(秀)	講義	2	2		②		②	○				
	子ども家庭支援論	中禮	講義	2	2		②					○		
	子ども家庭福祉	中村(秀)	講義	2	2		②		②	○				
	社会的養護Ⅰ	中村(秀)	講義	2	2		②						○	
	社会的養護Ⅱ	岡田	演習	1	1		①						○	
	特別支援の理解	岡田・牧野	演習	1	1	①	①	①				○		
	障害児保育	村上	演習	1	1		①				○			
	保育心理演習	河村・岡田	演習	1	1		1	①				○		
	保育心理	岡田・吉栁	講義	2	2		2	②		○				
	保育人間学	吉元	講義	1	1		1	①				○		
	保育実習Ⅰ(保育所)	村上・岡田・宮地	実習	2	2		②					○		
	保育実習Ⅰ(施設)	岡田・宮地・村上	実習	2	2		②					○		
	保育実習Ⅱ	宮地・岡田・村上	実習	2	2		②					○		
	個別支援実習	岡田・河村	実習	2	2			②				○		
	実習基礎演習	樋口・恒賀・永山・橋本	演習	2	2		2			○				
	実習基礎指導	樋口・恒賀・永山・橋本	講義	1	1		1				※			※集中講義
	保育実習指導Ⅰ（保育所）	村上・岡田・宮地	演習	1	1		①				○	○		事前事後指導を含む
	保育実習指導Ⅰ（施設）	岡田・宮地・村上	演習	1	1		①				○	○		事前事後指導を含む
	保育実習指導Ⅱ	宮地・岡田・村上	演習	1	1		①					○		事前事後指導を含む
	個別支援実習指導	岡田・河村	演習	1	1			①					○	
卒業・資格取得に必要な最低単位数		基礎科目			14	8	10	14	8					
		専門科目			52	32	62							

○数字は必修科目

専門科目

科目名		担当者	
保育内容の理解と方法Ⅲ		橋本・樋口・恒賀・吉柳	
学科名	開講時期	授業方法	単位数
幼児教育学科	2学年　前期	演習	1単位
実務経験		他学科履修	科目等履修
恒賀：小学校教諭（～2016年） 橋本：県立高校(表現ダンス教育30年：教諭25年、指導主事5年)		不可	可

授業概要

子どもの心身の発達や環境等と保育指針や教育要領で示される内容を踏まえ、見立てなどの体を使った遊びや表現、身近な自然と音や人の声、音楽に親しむ遊びや表現、身近な自然と色や形、感触やイメージに親しむ遊びや表現、自らが児童文化に親しむ遊びと表現を豊かに展開するために必要な技術を実践的に習得する。

到達目標・学修成果

各領域について子どもの遊びと表現を豊かに展開するための必要な知識をもとに、協働して教材等の活用や表現の実践取り組むことができる。

	テーマ・学修内容	準備学習（予習・復習）
1	オリエンテーション・授業のねらいと進め方について	
2	ことば・物語・動きと音楽① 具体的イメージを音にする活動。組み合わせる要素や素材を決め音楽を創作する。	好きな絵本・詩・絵・映像作品等を1点以上準備する。
3	ことば・物語・動きと音楽② 要素の関連や効果を味わい工夫しながら創作を行う。	創作したものの記録（記譜）を行っておく。
4	ことば・物語・動きと音楽③ 音楽とそれ以外の表現要素の関わりを工夫し、相互鑑賞を行う。	イメージが具体的音楽表現となるよう、創作の完成、演奏練習を行う。
5	造形表現作品創作：少人数によるグループ創作 題材（テーマ）の提示、造形の表現方法選択、制作	表現をより効果的に伝える方法を考える（復）
6	造形表現作品創作：少人数によるグループ創作 題材（テーマ）にそった制作および他領域の効果的な活用	制作物の完成と他領域の表現方法の習得（復）
7	造形表現作品創作：グループごとの表現作品として完成と相互評価 他領域による効果と相互評価の重要性の理解	作品の見せ方の工夫と準備（予）
8	身体表現作品創作1：少人数によるグループ創作 題材（テーマ）の提示、気に入った場面のイメージ創作、動きによる即興表現	テキストの「身体表現」を読む・フレーズを考える
9	身体表現作品創作2：動きによる即興表現をもとに、ひと流れの動きの創作（フレーズつくり）	動ける身体の意識・フレーズからストーリーを考える
10	身体表現作品創作3：ひと流れの動きのフレーズをもとに、「はじめーなかーおわり」のストーリーを構成してまとめ、発表する。 感じを込めた動きと相互評価の重要性の理解	動ける身体の意識・「身体表現」の学びを振り返る
11	場面創作①写真・絵画をもとに物語を創作し、静止画として演じてみる。相互鑑賞を行う。	心揺さぶられる、劇的な写真や絵画を探しておく。
12	場面創作②テーマをもとに物語を創作し、演じてみる。相互鑑賞を行う。	テーマに基づいた評価の方法について考える
13	場面創作③即興的に場面を演じる、歌を歌う、ダンスをすることを楽しむ。相互鑑賞を行う。	自由に表現できる環境を整える方法を考える。
14	学びをもとに、発表の方向性を考え、グループに分かれる。	これまでの学びを振り返っておく。
15	表現内容グループごとにどんな発表にしていくか概要を考える。	発表のイメージ案をつくる。
定期試験		

教材・参考文献

『イラストで読む 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はやわかりBOOK』
『保育内容 表現　鈴木みゆき他 光生館』

成績評価方法

受講態度（ 40 %）　小テスト（ %）　授業内課題（ 20 %）レポート
定期試験（ %）　授業内発表（ 40 %）　その他【 】（ %）
自由記述（ ）

履修上の注意

科目名		担当者	
保育内容の理解と方法Ⅳ		橋本・樋口・恒賀・吉柳	
学科名	開講時期	授業方法	単位数
幼児教育学科	2学年　後期	演習	1単位
実務経験		他学科履修	科目等履修
恒賀：小学校教諭（～2016年） 橋本：県立高校(表現ダンス教育30年：教諭25年、指導主事5年)		不可	可

授業概要

子どもの心身の発達や環境等と保育指針や教育要領で示される内容を踏まえ、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を用いて、教材等の活用及び作成を通じて実践発表を行うとともに、保育の環境構成及び具体的展開のため技術を習得する。

到達目標・学修成果

子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を用いて、教材等の活用及び作成を通じて協働して実践発表を行うとともに、保育の環境構成及び具体的展開のため技術を習得することができる。

	テーマ・学修内容	準備学習（予習・復習）
1	オリエンテーション・授業のねらいと進め方について（手法：ベストミックス）	表現について予め調べておく
2	グループによる表現内容（テーマ及び内容・手法）の検討と計画立案	希望のテーマや内容をいくつか考えてくる
3	計画に基づいたグループによる役割分担と制作・活動	グループの役割をもとに今後の見通しを考えていく
4	表現活動の創造（1）素材(もの・ことば・動き・楽器等）の吟味と関連領域の関わりの考察	表現内容と素材を関連付けて考えられるように
5	表現活動の創造（2）素材(もの・ことば・動き・楽器等）の吟味と関連領域の基礎的事項の振り返り	表現内容から適した素材を予め考えておく
6	表現活動の創造（3）素材(もの・ことば・動き・楽器等）の工夫と関連領域含めた構想の確立	素材選びをもとに、具体的な表現にしていく
7	表現活動の創造（4）素材(もの・ことば・動き・楽器等）の効果的活用と関連領域の融合	素材の良さを生かしながら効果的な表現を考えておく
8	中間発表に向けた準備（1）中間発表に向けた計画の進捗状況の把握と修正箇所の検討	表現を繰り返し振り返りよりよい表現について考えておく
9	中間発表に向けた準備（2）表現内容に応じた工夫②：各領域と関連性の考察	より効果的な表現を考える
10	中間交流：表現の途中経過を概観することで、発表会に向けた見通しを持つ	中間交流を通して、途中経過の状況を把握する
11	表現作品・内容の構成の見直しと完成に向けた調整①	調整した結果を再度確認しておく
12	表現作品・内容の構成の見直しと完成に向けた調整②	確認した内容を次の活動や表現に活かせたか振り返る
13	表現作品の実践①：「遊びと表現発表会」	表現にむけて準備を整える
14	表現作品の実践②：「遊びと表現発表会」	表現にむけて心を整える
15	表現作品の実践③：「遊びと表現発表会」を振り返り、これからの表現活動を展望する	表現の振り返りを客観的に行う。
定期試験		

教材・参考文献

『イラストで読む　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領はやわかりBOOK』
『保育内容　表現　　鈴木みゆき他　光生館』

成績評価方法

受講態度（　40　%）　　小テスト（　　%）　　授業内課題（　　%）
定期試験（　　%）　　授業内発表（　40　%）　　その他【　　】（　　%）
自由記述（　　最終レポート 20%　　）

履修上の注意

科目名		担当者	
音楽実技Ⅱ		樋口・井浦・片岡・楠・中島・藤田・森・吉賀	
学科名	開講時期	授業方法	単位数
幼児教育学科	2学年　前期	演習	1単位
実務経験		他学科履修	科目等履修
		不可	不可

授業概要

保育の現場では、音楽、その中でも子ども達の歌は欠かすことができない活動である。子どもの想像力を豊かにし、心からのびのびと歌えるために、保育者は、自身の感性と音楽表現の技術を高めていかなければならない。ここでは、一年次の保育内容の理解と方法Ⅰ・音楽実技Ⅰを基礎に、歌唱及びピアノ演奏についてより学びを深める。

到達目標・学修成果

一年次の音楽実技Ⅰを基礎に、より実践的、かつより豊かな音楽的環境を保育の現場に提供できる保育者となることを目指し、歌唱及びピアノの演奏を通して音楽的感性を高め、技術・知識を習得する。ピアノ演奏、うたについてより多くの楽曲を通して学ぶ。

	テーマ・学修内容	準備学習（予習・復習）
1	実技演習①	課題曲の練習
2	実技演習②	課題曲の練習
3	実技演習③	課題曲の練習
4	実技演習④	課題曲の練習
5	実技演習⑤	課題曲の練習
6	実技演習⑥	課題曲の練習
7	実技演習⑦	課題曲の練習
8	実技演習⑧	課題曲の練習
9	実技演習⑨	課題曲の練習
10	実技演習⑩	課題曲の練習
11	実技演習⑪	課題曲の練習
12	実技演習⑫	課題曲の練習
13	実技演習⑬	課題曲の練習
14	実技演習⑭	課題曲の練習
15	まとめ（演奏発表）	発表曲の練習
定期試験	演奏実技試験	

実技演習①～⑭では、下記についてグループまたは個人指導の形態で学習する。
歌唱とピアノは、グループ内でアンサンブルの形で学習する。

A. 歌唱
発声について学ぶ。
（呼吸、体の使い方とそのコントロール）
「子どもたちの歌」Ⅲ段階の曲の歌唱法を学ぶ。
（ことば、フレーズ、音程、リズムや拍子、速度、テクスチュア、強弱）

B. ピアノ
ピアノの基本的奏法について学ぶ。
（姿勢、指の基礎運動、体の使い方）
「子どもたちの歌」Ⅲ段階以上の曲の伴奏法を学ぶ。
（正確な読譜、歌の呼吸、旋律、フレーズ、リズムや拍子、速度、音色、テクスチュア、強弱）

教材・参考文献

子どもたちの歌

成績評価方法

受講態度（30%）　小テスト（　　%）　授業内課題（10%）
定期試験（30%）　授業内発表（30%）　その他【　　】（　　%）
自由記述（　　）

履修上の注意

毎回の授業には、練習を十分に積んで臨む必要がある。グループ分け及び担当者・教室は掲示板にて確認すること。

科目名		担当者	
音楽実技Ⅲ		樋口・井浦・片岡・楠・中島・藤田・森・吉賀	
学科名	開講時期	授業方法	単位数
幼児教育学科	2学年　前期	演習	1単位
実務経験		他学科履修	科目等履修
		不可	不可

授業概要

保育の現場では、音楽、その中でも子ども達の歌は欠かすことができない活動である。子どもの想像力を豊かにし、心からのびのびと歌えるために、保育者は、自身の感性と音楽表現の技術を高めていかなければならない。ここでは、前期の音楽実技Ⅱに続き、歌唱及びピアノ演奏についてより学びを深める。

到達目標・学修成果

一年次の音楽実技Ⅰを基礎に、より実践的、かつより豊かな音楽的環境を保育の現場に提供できる保育者となることを目指し、歌唱及びピアノの演奏を通して音楽的感性を高め、技術・知識を習得する。ピアノ演奏、うたについてより多くの楽曲を通して学び、幼児の歌を自らのピアノ伴奏により弾き歌いできるようにする。

	テーマ・学修内容	準備学習（予習・復習）
1	実技演習①	課題曲の練習
2	実技演習②	課題曲の練習
3	実技演習③	課題曲の練習
4	実技演習④	課題曲の練習
5	実技演習⑤	課題曲の練習
6	実技演習⑥	課題曲の練習
7	実技演習⑦	課題曲の練習
8	実技演習⑧	課題曲の練習
9	実技演習⑨	課題曲の練習
10	実技演習⑩	課題曲の練習
11	実技演習⑪	課題曲の練習
12	実技演習⑫	課題曲の練習
13	実技演習⑬	課題曲の練習
14	実技演習⑭	課題曲の練習
15	まとめ（演奏発表）	発表曲の練習
定期試験	演奏実技試験	

実技演習①～⑭では、下記について、グループまたは個人指導の形態で学習する。
自らの伴奏による弾き歌いの形で学習する。

A. 歌唱
発声について学ぶ。
（呼吸、体の使い方とそのコントロール）
「子どもたちの歌」Ⅳ段階の曲の歌唱法を学ぶ。
（ことば、フレーズ、音程、リズムや拍子、速度、テクスチュア、強弱）

B. ピアノ
ピアノの基本的奏法について学ぶ。
（指の基礎運動、体の使い方）
「子どもたちの歌」Ⅳ段階以上の曲の伴奏法を学ぶ。
（正確な読譜、歌の呼吸、旋律、フレーズ、リズムや拍子、速度、音色、テクスチュア、強弱）

教材・参考文献

子どもたちの歌

成績評価方法

受講態度（30%）　小テスト（　　%）　授業内課題（10%）
定期試験（30%）　授業内発表（30%）　その他【　　】（　　%）
自由記述（　　）

履修上の注意

毎回の授業には、練習を十分に積んで臨む必要がある。グループ分け及び担当者・教室は掲示板にて確認すること。

科目名		担当者	
子ども家庭支援の心理学		牛島　弘輔	
学科名	開講時期	授業方法	単位数
幼児教育学科	2学年　後 期	講義	2 単位
実務経験		他学科履修	科目等履修
スクールカウンセラー(2年)、臨床心理士(2年)、学童保育(3年)		不可	可

授業概要

生涯発達と初期経験に関する心理学の基礎的な知識を学ぶ
現代における家族・家庭の意義や機能を理解し、子どもととその家庭を包括的にとらえる視点を学ぶ

到達目標・学習成果

現代の子ども家庭の現状や心理状態を理解し、家庭支援の意義と効果が理解できるようになる。

	テーマ・学修内容	準備学習(予習・復習)
1	オリエンテーション・授業のねらいと進め方について	シラバスを読み、家庭支援とは何か事前に調べておく
2	乳児期の発達・家庭への関わり方	資料を参考に乳児期の対応を振り返る
3	幼児期の発達・家庭への関わり方	資料を参考に幼児期の対応を振り返る
4	学童期の発達・家庭への関わり方	資料を参考に学童期の対応を振り返る
5	青年期の発達・家庭への関わり方	資料を参考に青年期の対応を振り返る
6	成人期・中年期・高齢期の発達	資料を参考に成人期以降の発達の特徴を振り返る
7	家族・家庭の意義と機能	資料を参考に家族・家庭の意義と機能を振り返る
8	家族関係・親子関係の理解・保育者が関わる事の意義	資料を参考に、保育者の関わりの意義を振り返る
9	子育ての経験と親としての育ち・家庭が保育者に求める事	資料を参考に、保育者に求められる内容を振り返る
10	子育てを取り巻く社会的状況・多様な家庭とその理解	資料を参考に、現代の家庭状況を振り返る
11	ライフコースと仕事・子育て家庭への理解	資料を参考に、仕事と家庭機能との関係を振り返る
12	特別な配慮を要する家庭についての理解・家庭への関わり方	資料を参考に、トラウマや虐待への関わりを振り返る
13	子どもの生活・生育環境とその影響	資料を参考に、こどもの現状について振り返る
14	子どものこころ健康にかかわる問題	資料を参考に子どものこころの健康の問題を振り返る
15	まとめ	
定期試験	実施	資料を参考に家庭への対応を考える

教材・参考文献

子ども家庭支援の心理学(中央法規)、たったひとつの命だから(地湧社)

成績評価方法

受講態度 (　15%)　　小テスト (　0%)　　授業内課題 (　60%)
定期試験 (　25%)　　授業内発表 (　%)　　その他【　】(　%)
自由記述 (　)

履修上の注意

各セッションごとに課題を行い、理解度、到達度を査定する。

科目名		担当者	
教育・保育課程論		山田俊之	
学科名	開講時期	授業方法	単位数
幼児教育学科	2学年　前期	講義	2 単位
実務経験		他学科履修	科目等履修
小学校(15年)、特別支援学校(7年)、大学・短大(15年)		不可	可

授業概要

教育・保育内容の充実と質の向上に資する計画及び評価について理解し、年間指導計画と指導案の作成についてその意義と方法について学ぶ。また、子どもの理解に基づく教育・保育の過程について、その全体構造を捉え、教育・保育カリキュラムの編成方法について実践的な学びを行う。

到達目標・学修成果

1、学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する
2、教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する
3、領域・年齢をまたいでカリキュラムを把握し、教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。

	テーマ・学修内容	準備学習(予習・復習)
1	ガイダンス　教育・保育課程とは	教育課程・保育課程について読んでおく
2	教育課程及びカリキュラムの基礎理論(基本原理と方法)	教育課程・保育課程について読んでおく
3	保育における計画と評価の意義の理解	保育理念・指導計画について考える
4	子どもの理解に基づく保育の過程の循環による保育の質の向上の重要性の理解	月間保育計画の事例について考えておく
5	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領の内容及び社会的背景	テキストを読んでおく
6	幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領保育所保育指針における保育の目標と計画の考え方	テキストを読んでおく
7	全体的な計画と指導計画の基本的考え方	テキストを読んでおく
8	全体的な計画の作成	テキストを読んでおく
9	指導計画(長期的・短期的)の作成	テキストを読んでおく
10	指導計画作成上の留意点	テキストを読んでおく
11	指導計画に基づく保育の柔軟な展開	テキストを読んでおく
12	保育の記録及び省察によるカリキュラム計画の理解	テキストを読んでおく
13	保育者及び保育所・幼稚園の自己評価の基礎的考え方について	テキストを読んでおく
14	保育の質の向上に向けた改善の取り組み(カリキュラム評価)	テキストを読んでおく
15	生活と発達の連続性を踏まえた幼稚幼児幼稚園指導要録と保育所児童保育要録	テキストを読んでおく
定期試験	記述式試験	

教材・参考文献

『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』(内閣府、文科省、厚労省、チャイルド社)、それぞれの解説書

成績評価方法

受講態度 (　　%)　　小テスト (　　%)　　授業内課題 (　　%)
定期試験 (　60 %)　　授業内発表 (　　%)　　その他(　　%)
自由記述 (　授業への取り組みと小レポート(40%)　　)

履修上の注意

各セッションごとに振り返りのレポートやグループワークでの発表を行い、理解度、到達度を査定する。

科目名		担当者	
保育内容・健康		永山　寛	
学科名	開講時期	授業方法	単位数
幼児教育学科	2学年　前期	演習	1　単位
実務経験		他学科履修	科目等履修
		不可	可

授業概要

領域「健康」の指導に関する、幼児期の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身に付ける。また、幼児期の身体や動作の特性、視線の動態等を把握し、指導上の留意点を明確にした指導案の立案、映像の即時フィードバックにて学習者の動きを可視化し、意欲・技能の向上を図るための情報機器(タブレット端末やビデオカメラ等)の活用法を学ぶ。

到達目標・学修成果

領域「健康」は「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う」ことを目指すものである。幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解する。また、幼児の発達と学びの過程を理解し、情報機器及び教材等を活用し、主体的・対話的な学びの過程を踏まえ具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付けることを目標とする。

	テーマ・学修内容	準備学習(予習・復習)
1	ガイダンス　領域「健康」とは	自分が考える「健康」とは何か考えておく
2	幼児の発育・発達(1)こころ・人間関係・社会性	教材やインターネット等にて調べておく
3	幼児の発育・発達(2)からだ・運動機能	教材やインターネット等にて調べておく
4	幼児の発育・発達(3)体格・運動能力の現状と課題	教材やインターネット等にて調べておく
5	運動の発達の特性と動きの獲得ー情報機器及び教材の効果的な活用—	教材やインターネット等にて調べておく
6	幼児期における運動あそび(個人及び集団)	教材やインターネット等にて調べておく
7	幼児期における運動あそびの実践	教材やインターネット等にて調べておく
8	幼児の生活習慣(1)自立と支援、食育	教材やインターネット等にて調べておく
9	幼児の生活習慣(2)年間行事(遠足、運動会等)の意義と目的	教材やインターネット等にて調べておく
10	幼児の安全管理・安全教育	教材やインターネット等にて調べておく
11	応急処置(実践)	教材やインターネット等にて調べておく
12	領域「健康」に関わる保育の計画と指導案 —幼児の動きや視線の特徴に着目した情報機器や教材の活用—	教材やインターネット等にて調べておく
13	領域「健康」に関わる模擬保育の実践(1)室内環境	教材やインターネット等にて調べておく
14	領域「健康」に関わる模擬保育の実践(2)屋外環境	教材やインターネット等にて調べておく
15	リフレクション(模擬保育及び領域「健康」の振り返り)	これまでの内容を振り返り、整理しておく
定期試験	レポート試験	

教材・参考文献

『事例で学ぶ保育内容 領域健康』(無藤隆著、萌文書林)、『保育者を目指すあなたへ—子どもと健康』(勝木信子著、みらい)、『幼児期運動指針』(文部科学省)、『アクティブチャイルドプログラム』(日本体育協会)、『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』(内閣府、文科省、厚労省、チャイルド社)、適宜、授業中に資料を配布する

成績評価方法

受講態度 (20 %)　　小テスト (%)　　授業内課題 (%)
定期試験 (60 %)　　授業内発表 (%)　　その他【 課題及び提出物 】(20 %)
自由記述 ( )

履修上の注意

実践の際は、運動靴や体操服・ジャージ等の動きやすい服装を準備してください。

科目名		担当者	
保育内容・環境		村上　有希	
学科名	開講時期	授業方法	単位数
幼児教育学科	2学年　前期	演習	1単位
実務経験		他学科履修	科目等履修
		可	可

授業概要

現代の幼児を取り巻く環境や幼児と環境との関わりについての専門的事項を踏まえ、幼稚園教育要領1 領域「環境」のねらい及び内容について理解を深め、幼児の発達に即して、深い学びが実現する過程 領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を身に付ける。また、情報機器を利用し、より具体的に幼児と環境との関わり方の理解を深める。

到達目標・学修成果

(1)幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する
(2)幼児の発達や学びの過程を理解し、情報機器及び教材等を活用し、主体的・対話的な学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。

	テーマ・学修内容	準備学習(予習・復習)
1	幼児教育の基本と保育内容「環境」	保育所保育指針・幼稚園教育要領の領域「環境」を読んでおく
2	子どもの発達と領域「環境」	実習で得てきた学びをまとめておく
3	領域「環境」のねらい、内容の展開　園外活動、園内活動の映像から、好奇心や探究心をもって関わる体験を考える	幼稚園教育要領解説の該当箇所を読んでおく
4	自然に親しみ、植物に触れる保育の実際(計画立案)	自身の植物とのかかわり体験を振り返っておく
5	自然に親しみ、植物に触れる保育の実際(模擬保育)	自身の植物とのかかわり体験を振り返っておく
6	自然に親しみ、植物に触れる保育の実際(栽培の実際)	自身の植物とのかかわり体験を振り返っておく
7	標識、文字等に関わる保育の実際(情報機器及び教材を活用し視覚的に理解する)	自身と視覚的情報にかかわる生活行為についてまとめておく
8	数量、図形等に関わる保育の実際(1)遊びの中での、標識、文字、情報にふれる活動	数量・図形・文字にかかわる生活行為についてまとめておく
9	数量、図形等に関わる保育の実際(2)数量、図形への関心、感覚を豊かにする活動	数量・図形・文字にかかわる生活行為についてまとめておく
10	生活に関係の深い情報や施設に関わる保育の実際　日本文化、異文化に触れる(情報機器及び教材を活用し視覚的に理解する)	自身の年中行事・季節行事の体験を振り返っておく
11	身近な素材や自然物を用いた保育の実際(計画立案する)	探求したい材料を用意しておく
12	身近な素材や自然物を用いた保育の実際(素材の収集)	探求したい材料を用意しておく
13	身近な素材や自然物を用いた保育の実際(模擬保育)	探求したい材料を用意しておく
14	身近な自然物や物に関わる保育の実際(模擬保育の振り返り)	探求したい材料を用意しておく
15	環境に関わる現代的課題(ユニバーサルデザイン、インクルーシブ保育)	配布プリントを読んでおく
定期試験	筆記試験	

教材・参考文献

『保育内容「環境」』(柴崎正行・若月芳浩著、ミネルヴァ書房)
『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』(内閣府、文科省、厚労省、チャイルド社)
授業中に適宜資料を配布する

成績評価方法

受講態度 (20 %)　小テスト (%)　授業内課題 (30 %)
定期試験 (50 %)　授業内発表 (%)　その他【 】(%)
自由記述 ( )

履修上の注意

科目名		担当者	
保育内容・人間関係		宮地あゆみ	
学科名	開講時期	授業方法	単位数
幼児教育学科	2学年 前期	演習	1 単位
実務経験		他学科履修	科目等履修
保育士(9年) 精神保健福祉士(1年)		不可	可

授業概要

領域「人間関係」の指導法の基盤となる、幼児と人との関わる力の育ちに関する保育内容の指導法についての知識を身につける。また、情報機器及び教材等を活用し、主体的・対話的な学びが実現する過程を踏まえて保育を構想する方法を身に付ける。

到達目標・学修成果

「人間関係」の目標やねらい内容等を、発達や生活および遊びなどと関連付けながら、演習をとおして具体的に理解する。また、情報機器及び教材を利用し子どもを取り巻く人間関係の在り方の理解を深める。

	テーマ・学修内容	準備学習(予習・復習)
1	オリエンテーション 領域「人間関係」とは	教科書読んでおくこと
2	保育者との信頼関係と安定感を形成する方法について	教科書や配布プリントに目を通しておくこと
3	自立心を育む援助の在り方について	教科書や配布プリントに目を通しておくこと
4	事例検討:模擬保育をとおしての遊びの発達と人間関係(1)3歳未満児	教科書や配布プリントに目を通しておくこと
5	事例検討:模擬保育をとおしての遊びの発達と人間関係(2)3歳以上児	教科書や配布プリントに目を通しておくこと
6	事例検討:模擬保育をとおしての遊びの発達と人間関係(3)共同性の育ち	教科書や配布プリントに目を通しておくこと
7	自己覚知と他者理解の在り方について	教科書や配布プリントに目を通しておくこと
8	幼児の葛藤とルールの在り方について	教科書や配布プリントに目を通しておくこと
9	ルールのある遊びと援助の在り方について	教科書や配布プリントに目を通しておくこと
10	道徳性・規範意識の芽生えについて(情報機器及び教材の活用を含む)	教科書や配布プリントに目を通しておくこと
11	個と集団の育ちについて(情報機器及び教材の活用を含む)	教科書や配布プリントに目を通しておくこと
12	保育場面での気になる子どもとのかかわり方と方法の検討	教科書や配布プリントに目を通しておくこと
13	地域の人達との繋がりを子ども達について(情報機器及び教材の活用を含む)	教科書や配布プリントに目を通しておくこと
14	多様な人、多様な子どもとの関わりの在り方について	教科書や配布プリントに目を通しておくこと
15	まとめ 専門性を持った保育者としての保育についての検討	教科書や配布プリントに目を通しておくこと
定期試験	筆記試験	

教材・参考文献

『保育内容 人間関係』濱名浩(編)(2009)みらい
『イラストで読む!幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はやわかりBOOK』無藤・汐見(著編)(2017)学陽書房
『幼稚園教育要領解説〈平成30年3月〉』文部科学省(著)(2018)

成績評価方法

受講態度 (20%) 小テスト (%) 授業内課題 (20%)
定期試験 (50%) 授業内発表 (10%) その他【 】(%)
自由記述 ( )

履修上の注意

科目名		担当者	
保育内容・表現(音楽)		樋口　光融	
学科名	開講時期	授業方法	単位数
幼児教育学科	2学年　前期	演習	1単位
実務経験		他学科履修	科目等履修
幼稚園長(5年)・高等学校教諭(11年)		不可	可

授業概要

領域「表現」のねらい及び内容、育みたい資質能力さらには幼児期の終わりまでに育ってほしい具体的姿について、他領域と関連を図りながら具体的な指導計画を作成し、演習等を通して知識と技能を学ぶと同時に、保育内容表現に関する必要な能力を身に付けていく。さらに、情報機器を用いた表現活動の方法を学び視野を広げる。

到達目標・学修成果

実践的な表現活動における知識や技能を身に付けて、幼稚園教育要領に示された保育内容「表現(音楽)」の背景にある専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、情報機器及び教材等を活用し、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定しながら保育を構想する方法を身に付ける。

	テーマ・学修内容	準備学習(予習・復習)
1	ガイダンス 音楽活動の作成1－物語と音楽(1)編曲と音素材の選択	シラバスおよび使用教材全体に目を通しておく
2	音楽活動の作成1－物語と音楽(2)創作・編曲と楽譜の作成	題材とする物語を選択し、使用する音素材を探しておく。
3	音楽活動の作成1－物語と音楽(3)発表と評価	楽譜の作成
4	音楽活動の計画(1)指導案(部分案)の作成～ねらいと活動-効果的な情報機器の活用-	幼稚園教育要領解説の2章2節を読み整理しておく。
5	音楽活動の計画(2)歌う活動	指導案の作成
6	音楽活動の計画(3)年間指導計画と活動の分類　-視覚・聴覚の相互作用に着目した情報機器の活用-	指導案の完成
7	音楽活動の作成2－合奏活動(1)音楽的発達の段階と活動の選択、展開の方法	題材楽曲を選択し、ピアノ譜を演奏できるようにしておく。
8	音楽活動の作成2－合奏活動(2)ピアノ譜をもとにした合奏譜の作成	合奏内容を決定しピアノ譜に書き込んでおく。
9	音楽活動の作成2－合奏活動(3)発表と評価	楽譜の作成
10	音楽活動の作成3－リトミック(1)音楽と身体的反応	題材として使用する任意の曲1曲をピアノで演奏できるよう練習しておく。
11	音楽活動の作成3－リトミック(2)保育者の即興的表現	題材として使用する任意の曲2曲をピアノで演奏できるよう練習しておく。
12	聴く活動の実際	子どもに聞かせたい音楽(演奏)とそのねらいの説明を準備する。
13	指導計画の作成と模擬実践(1)保育者の援助の在り方	使用する題材の選択と準備
14	指導計画の作成と模擬実践(2)音楽活動の評価	指導案の作成
15	指導計画の作成と模擬実践(3)発表と評価	指導案の完成
定期試験	実施しない	

教材・参考文献

『子どもの音感受の世界』(萌文書林)、『子どもたちのうた』、『保育内容・表現』(建)、『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』

成績評価方法

受講態度　(50%)　　小テスト　(　　%)　　授業内課題　(　%)
定期試験　(　　%)　　授業内発表　(　　%)　　その他【　　レポート　　】(　　50　%)
自由記述　(　　)

履修上の注意

科目名		担当者	
保育内容・表現(造形)		恒賀　康太郎	
学科名	開講時期	授業方法	単位数
幼児教育学科	2 学年　前期	演習	1　単位
実務経験		他学科履修	科目等履修
小学校教諭(図工科教育12年)、幼稚園2種、小学校1種、中学校高校1種(美術)、高校1種(工芸)免許状		不可	可

授業概要

領域「表現」のねらい及び内容、育みたい資質能力さらには幼児期の終わりまでに育ってほしい具体的姿について、情報機器を活用して他領域と関連を図りながら具体的な指導計画を作成し、演習等を通して知識と技能を学ぶと同時に、保育内容表現に関する必要な能力を身に付けていく。

到達目標・学修成果

実践的な表現活動における知識や技能を身に付けて、幼稚園教育要領に示された保育内容「表現(造形)」の背景にある専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、情報機器及び教材等を活用し、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定した保育方法を構想する。

	テーマ・学修内容	準備学習(予習・復習)
1	幼稚園教育要領「表現」のねらい及び内容を知り、発達や学びの過程を理解する。	教育要領を読んでおくP17～
2	様々な領域の関連性について理解を図り、表現活動や遊びの本質を理解する。	表現活動と遊びについて該当ページを読んでおくP22～
3	幼児の表現活動の思いやイメージを感じるとともに、より豊かにする環境構成や言葉掛けについて考える。	表現活動と感性について考えを持っておく。P25～
4	造形活動の創造(1)遊びの要素となる基礎的事項を学ぶことを通して、幼児期の表現活動を考察する(情報機器及び教材を活用した表現遊びや発話)	遊びの要素としての造形活動を知る。P33 ～
5	造形活動の創造(2)遊びの要素となる基礎的事項を振り返り、より豊かな表現活動を考察する	遊びの要素となる素材について配布プリントを予習する
6	造形活動の創造(2)遊びの要素となる基礎的事項を振り返り、より豊かな表現活動を考察する	実際の素材を使って体験するため準備を揃えておく
7	表現を通じた遊びの交流及び体験を通して、幼児の遊びの在り方について考える	交流の感想をもとに、より良い活動を考える。
8	保育者の役割(1)構想と計画及び評価についての保育者としての基礎知識を学ぶ	保育者の役割について見通しを持っておくP49
9	保育者の役割(2)構想を基にした指導計画および指導案の作成の仕方について学ぶ	指導案の書き方を予習しておく。P97
10	保育者の役割(3)「表現」にかかわる指導案の構造を知り、作成する	指導案を書くことで、活動の見通しが持てるようにする。
11	実践(1)指導案をもとに、模擬保育等の実践を通してよりよい「表現」活動を考える(3歳児)	指導案をもとに活動を行い、振り返る。
12	実践(2)指導案をもとに、模擬保育等の実践を通してよりよい「表現」活動を考える(4歳児)	指導案をもとに活動を行い、振り返る。
13	実践(3)指導案をもとに、模擬保育等の実践を通してよりよい「表現」活動を考える(5歳児)	指導案をもとに活動を行い、振り返る。
14	様々な素材や情報機器及び教材を生かした表現活動に関する取り組みを調べ、幼児の表現活動についての視点を増やす	予め新しい素材や情報機器を活用した活動を調べておく
15	これまでの学びを振り返り、幼児の表現活動について考える	振り返りを今後に生かす。
定期試験	実施	

教材・参考文献

「造形表現」(一藝社)『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』(内閣府、文科省、厚労省、チャイルド社)

成績評価方法

受講態度 (　30 %)　　小テスト (　　%)　　授業内課題 (　　%)
定期試験 (　　%)　　授業内発表 (　　%)　　その他【　　定期試験・レポート　　】(　70　%)
自由記述 (　　)

履修上の注意

造形遊びの要素となる素材づくりを行ってきてもらいます。

科目名		担当者	
教育方法論		山田俊之	
学科名	開講時期	授業方法	単位数
幼児教育学科	2学年　前期	講義	2 単位
実務経験		他学科履修	科目等履修
小学校(15年)、特別支援学校(7年)、大学・短大(15年)		不可	可

授業概要

これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の技術、情報機器および教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

到達目標・学修成果

教師(保育者)としての教育方法の基礎と実践を学ぶ。
保育の目標を踏まえ、保育方法、保育を構成する要件、評価の基本的な考え方を理解する。
保育を行う上での基礎的な技術を理解し身につける。(情報機器の活用を含む)

	テーマ・学修内容	準備学習(予習・復習)
1	ガイダンス・各方法論の概要	ガイダンス時に提示する
2	要領・指針(1)幼稚園教育要領を読み、理解する	ガイダンス時に提示する
3	要領・指針(2)保育所保育指針を読み、理解する	ガイダンス時に提示する
4	要領・指針(3)幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み、理解する	一年次の『保育原理』のテキストとプリントを読んでおく
5	教育理論(1)ルソー「エミール」の思想を理解する	一年次の『保育原理』のテキストとプリントを読んでおく
6	教育理論(2)フレーベル・モンテッソーリの保育思想を理解する	一年次の『保育原理』のテキストとプリントを読んでおく
7	教育理論(3)児童中心主義の保育思想を理解する	配布プリント教材を復習
8	教育理論(4)真宗保育の保育思想を理解する	配布プリント教材を復習
9	保育方法(1)保育を構成する基礎的な要件を理解する	配布プリント教材を復習
10	保育方法(2)学習評価の基礎的な考え方を理解する	配布プリントを教材復習
11	保育技術(1)保育を行う上での基礎的な技術を身に付ける	配布プリン教材を復習
12	保育技術(2)基礎的な学習指導理論を踏まえて学生指導案を作成する力を身に付ける	ガイダンス時に提示する
13	保育技術(3)情報機器を活用した教材を作成・提示する力を身に付ける	ガイダンス時に提示する
14	保育技術(4)子どもたちの情報活用能力育成のための指導法を理解する	ガイダンス時に提示する
15	おわりに　これまでの講義を振り返る	配布プリント教材をまとめる
定期試験	記述式試験	

教材・参考文献

参考書・参考資料等
『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』(内閣府、文科省、厚労省、チャイルド社)

成績評価方法

受講態度 (　　%)　　小テスト (　%)　　授業内課題 (　%)
定期試験 (　60%)　　授業内発表 (　%)　　その他(　　%)
自由記述 (　授業への取り組みと小レポート(40%)　　)

履修上の注意

各セッションごとに振り返りのレポートやグループワークでの発表を行い、理解度、到達度を査定する。

科目名		担当者	
子育て支援		岡田健一	
学科名	**開講時期**	**授業方法**	**単位数**
幼児教育学科	2 学年 後期	演習	1 単位
実務経験		**他学科履修**	**科目等履修**
		可	可

授業概要

保育士の業務の二本柱は、児童に対する保育と保護者に対する相談支援(子育て支援)である。本授業では、ストーリーを通して子育て支援の現場を具体的にイメージしながら、子育て支援の方法と技術を具体的に理解する。

到達目標・学修成果

1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。
2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。

	テーマ・学修内容	準備学習(予習・復習)
1	子育て支援とは 子どもの保育とともに行う保護者の支援	Lesson1を読んでくる
2	子育て支援の意義 保育所等における支援	Lesson2を読んでくる
3	子育て支援の基本的価値・倫理 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解、多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解	Lesson3を読んでくる
4	子育て支援の基本的姿勢 社会資源の活用、日常的・継続的な関わりを通じた相互理解と信頼関係の形成、多様な他者と関わる機会や場の提供	Lesson4を読んでくる
5	子育て支援の基本的技術 子ども及び保護者の状況・状態の把握、支援の計画と環境の構成、特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援	Lesson5を読んでくる
6	受け止めるコミュニケーション	日常で受け止めるコミュニケーションを試す
7	園内・園外との連携と社会資源 職員間の連携・協働、関係機関や専門職等との連携・協働、虐待の予防と対応、要保護児童等の家庭に対する支援	Lesson6を読んでくる
8	記録・評価・研修 支援の実践・記録・評価・カンファレンス、特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援	Lesson7を読んでくる
9	日常会話を活用した子育て支援 子どもの保育とともに行う保護者の支援	Lesson8を読んでくる
10	文書を利用した子育て支援 子どもの保育とともに行う保護者の支援、特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援	Lesson9を読んでくる
11	行事などを活用した子育て支援 子どもの保育とともに行う保護者の支援、特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援	Lesson10を読んでくる
12	地域子育て支援拠点における支援 地域の子育て家庭に対する支援	Lesson12を読んでくる
13	通所における子育て支援 障害のある子ども及びその家庭に対する支援	Lesson14を読んでくる
14	幼児の生活とメディア	小冊子「幼児・生活・メディア」を読んでくる
15	コミュニケーションが難しい保護者さんへの支援	配布資料を読み返す
定期試験		

教材・参考文献

二宮祐子(2018):子育て支援－15のストーリーで学ぶワークブック－. 萌文書林.
NPO法人子どもとメディア(2017):幼児・生活・メディア－テレビ・DVD・スマホ・タブレットとうまくつきあうために. NPO法人子どもとメディア.

成績評価方法

受講態度 (%) 小テスト (%) 授業内課題 (75 %)
定期試験 (%) 授業内発表 (%) その他【 】(%)
自由記述 (最終レポート 25%)

履修上の注意

科目名		担当者	
子ども理解と教育相談		徳本　祥	
学科名	開講時期	授業方法	単位数
幼児教育　学 科	2 学年　前期	講義	2　単位
実務経験		他学科履修	科目等履修
		可	可

授業概要

1.幼児期の心身発達を理解できる。2. 幼児のアセスメント方法としての観察や記録、発達検査について学ぶ。3. 集団の中での幼児の実態への理解を通して幼稚園での育ちを知る。4. 幼児のつまずきが現れる背景を知る方法を学ぶ。5. 幼児とその家庭に関する臨床的問題の実際や現代の教育現場に於ける諸問題をを理解する。6. 多様な保護者・様々な問題を抱える子どもの理解と支援の方法を学ぶ。以上について自分が実際に教職に就いて様々な問題に直面したとき、、どう判断しどう行動するかを考えることと同時に、共に学ぶ他の学生がどのような考えを持っているかを聞くことの両方を大事にしながら、授業を進めていく。

到達目標・学修成果

1.幼児期の心身発達理解を理解できる。2. 幼児の行動の背景を心理学的に理解し、観察や記録を通してアセスメントできる。3. 個と集団の関係を捉え、幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から検討できる。4. 高度専門職人を目指す者として幼児教育に於ける教育相談並びに保護者対応の重要性を理解し教育相談に必要な傾聴姿勢と技能を身に付ける。.

	テーマ・学修内容	準備学習（予習・復習）
1	幼児を理解するために。幼児理解の意義	「大人」と「子供」の違いを考えてみる
2	幼児理解の基盤；乳幼児発達	乳幼児発達の過程を振り返る
3	幼児理解のための教師の態度：教師のまなざしと関わり	乳幼児期の「母子関係」の発達を振り返る
4	幼児の環境理解：個と集団、大人と子ども	「環境移行」の意味を調べる
5	幼児理解のための観察と記録の方法：子ども理解と私理解	保育者の対場ではなく幼児の立場に立った幼児理解を学ぶ
6	幼児のつまずきを理解する(1)：発達の節目に現れるつまずきと幼児に現れる心身の症状	各発達段階特有の「気になる症状や行動」を調べる
7	幼児のつまずきを理解する(2)：幼児を取り巻く環境	幼児を取り巻く環境が発達するにつれどう変化するか考える
8	保護者の心情と基礎的対応の理解	保護者が「我が子の発達とそのつまずき」をどう理解する傾向があるか考えてみる。
9	教育・保育の現場における教育相談の意義と課題	保護者と「信頼関係」を結ぶために保育者が日常心がけるべきことを考える
10	子どもの教育相談に関わる心理学の基礎的理解	「カウンセリング」の言葉の意味を調べる
11	子どもの不適応や問題行動の意味とシグナルへの対応	人間の行動の持つ「意味」を理解するにはどうすればよいか考える
12	カウンセリングマインドの必要性	「受容」、「共感」、「傾聴」の意味を調べる
13	受容・傾聴・共感的理解の実際：ロールプレイ	援助を求める子どもや保護者の思いを想像する
14	教育相談の実際：いじめ、不登園、虐待などの事例から学ぶ	相談援助における「個別化原理」の意味を調べる
15	教育相談の展開：教育相談の計画や体制の整備及び他職種連携	保育所・幼稚園は活用できるどんな「社会資源」を持っているか調べる
定期試験	定期試験	

教材・参考文献

使用テキスト:『幼児理解と保育援助』(森上史朗・浜口順子著、ミネルヴァ書房)
参考文献:『発達の扉～子どもの発達の道筋(上・下)』(白石正久著、かもがわ出版)、『保育臨床相談(新保育ライブラリ　保育の内容・方法を知る)』(小田豊・中橋美穂・菅野信夫著、北大路書房)、『平成29年告示　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定子ども園教育・保育要領　原本』(内閣府、文科省、厚労省、チャイルド社)

成績評価方法

受講態度（　　%）　小テスト（ 30　%）　授業内課題（ 30　%）
定期試験（ 40　%）　授業内発表（　　%）　その他【　　】（　　%）
自由記述（　　）

履修上の注意

科目名		担当者	
教育・保育実践演習		徳本　祥	
学科名	開講時期	授業方法	単位数
幼児教育　学 科	2 学年　後　期	演習	2 単位
実務経験		他学科履修	科目等履修
		不可	可

授業概要

授業目標に属するテーマを幾つか選び、テーマ毎にまず教員が講義し、それを基にグループで資料を作成し発表し、発表グループ以外のグループは発表を評価する。

到達目標・学修成果

必修科目講義や実習での学びを通じ、保育士として必要な知識技能を習得したことを確認する

	テーマ・学修内容	準備学習（予習・復習）
1	個人ワーク①自分の現在までの実習を振り返ってみる:評価票と自分の実感との比較	今までの実習についてまとめておく
2	講義①クラス担任の役割、単独担任と複数担任	実習で見たクラス担任についてまとめておく
3	講義②＋個人ワーク②:年度初めの保護者へのあいさつ、保護者との信頼関係作り	実習で体験した保護者との関わりについて振り返っておく
4	講義③「保育カリキュラム」について	実習で体験した「保育カリキュラム」について振り返っておく
5	講義④行事のねらいについて	実習で体験した「行事」について振り返っておく
6	グループワーク③作成した「月案」の発表、評価	実習で体験した「月案」について振り返っておく
7	グループワーク④作成した「行事計画案」の発表、評価	実習で体験した「行事計画」について振り返っておく
8	講義⑤年齢別基本的生活習慣指導について	これまでに学んだ「年齢別基本的生活習慣」についてまとめる
9	グループワーク⑤「基本的生活習慣指導案」の発表	「年齢別基本的生活習慣指導案」についてまとめる
10	グループワーク⑥「基本的生活習慣指導案」の発表、評価(2)	「年齢別基本的生活習慣指導案」についてまとめる
11	講義⑥クラス便り作成のポイント	実習で体験した「クラスだより」について振り返っておく
12	講義⑦保護者への対応	実習で体験した「保護者への対応」について振り返っておく
13	グループワーク⑥「保護者への対応事例」ロールプレイング	前回の講義を振り返っておく
14	グループワーク⑦「クラス便り」発表	クラスだより作成のポイントを振り返っておく
15	講義⑧:幼小連携について	前回までの復習
定期試験	記述式試験	

教材・参考文献

随時資料プリント配布

成績評価方法

受講態度（　　%）　　小テスト（　　%）　　授業内課題（　　%）
定期試験（　30　%）　　授業内発表（　　%）　　その他【　　】（　　%）
自由記述　（グループ発表20%　　発表グループ採点　20%　　個人ワーク20%　　グループ発表資料10%　）

履修上の注意

科目名		担当者	
教育実習指導Ⅱ		永山　寛・恒賀康太郎・橋本真理子	
学科名	開講時期	授業方法	単位数
幼児教育学科	2　学年　通年	演習	1　単位
実務経験		他学科履修	科目等履修
		不可	可

授業概要

事前指導では教育実習生として教育活動に補助的な役割を担う意識を高めるとともに指導案の作成方法を学ぶ。事後指導では教育実習を経て得られた知識と経験を振り返り自己課題を明確にする。

到達目標・学修成果

幼稚園教育において必要な資質・技能を学び、教育者としての愛情と使命感を深める。そのため、実習を踏まえて子どもの実態と向き合い、教育実践並びに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることを目標とする。

	テーマ・学修内容	準備学習（予習・復習）
1	ガイダンス／法的位置づけや実習に向けての遵守すべき義務等を振り返り心構えを新たにする	実習スケジュールや事務手続きについて確認しておく
2	実習園の経営方針及び特色ある教育活動について事前に調べ、心構えをもつ	実習園について調べておく
3	保育や教育に必要な形態・展開・環境構成等の基礎的技術を学ぶ	園内の環境構成や安全への配慮について調べておく
4	幼稚園教育要領に基づいて指導計画の手順・考え方及び作成方法を学び、子どもの発達に合わせて指導計画の作成を始める	幼稚園教育要領に目を通しておく
5	子どもの姿及びねらいについて書くべき内容を学び、それを参考にしながら調べた活動のねらいを明らかにしていく	活動のねらいや意義について考えておく
6	ねらいに基づいた具体的な活動内容について、発達や経験、興味や時期等を記述していく	発達段階を踏まえた活動内容を調べておく
7	環境構成について検討し、安全への配慮や図に示せないことなどを文章で補足する	発達段階を踏まえた活動内容を調べておく
8	子どもの発達による変容をもとに、年齢や発達段階に応じて活動が計画できるようにする	発達段階を踏まえた活動内容を調べておく
9	遊び・活動等の教材研究を進め、全日及び部分実習の指導案の作成をはじめる	発達段階を踏まえた活動内容を調べておく
10	実習の手続きの確認及び指導案の作成を進め、保育・教育の実践に備える	実習の手続きの確認及び指導案の作成を進めておく
11	グループ内での交流を基に、発表する内容を企画し、資料を収集する	日誌・所見等に目を通し、事例報告の準備をしておく
12	パワーポイントによる発表資料の作成及び発表原稿を作成する①	必要な資料の作成準備と整理をしておく
13	パワーポイントによる発表資料の作成及び発表原稿を作成する②	必要な資料の作成準備と整理をしておく
14	リフレクション①／発表をし、他の実習園について他のグループと共通理解を形成する	発表資料を作成し、質疑応答への準備をしておく
15	リフレクション②／振り返りとまとめ	実習を振り返り、課題克服や達成に向けて取り組んでおく
定期試験	実施しない	

教材・参考文献

文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館
内閣府／文部科学省／厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

成績評価方法

受講態度（ 50 %）　小テスト（　　%）　授業内課題（ 50 %）
定期試験（　　%）　授業内発表（　　%）　その他【　　】（　　%）
自由記述（　　）

履修上の注意

「より良い実習」を実現するために欠席はしないようにしてください。実習期間中に1回、指導教員が実習園へ行き巡回指導を行います。ただし、諸事情により困難が生じる際は、それに準ずる巡回指導を行います。

科目名		担当者	
教育実習Ⅱ		永山　寛・恒賀康太郎・橋本真理子	
学科名	開講時期	授業方法	単位数
幼児教育学科	2 学年　通年	演習	2 単位
実務経験		他学科履修	科目等履修
		不可	可

授業概要

教育実習は、観察、参加、実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的、総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につける。

到達目標・学修成果

①様々な活動の場面で適切に幼児と関わり、教諭としての必要な資質・技能の向上を図る。②適切な援助や指導について学ぶとともに、幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。③自己の幼稚園教諭像を形成し、その実現に向けて課題を明確化するとともに適切な場面で情報機器を活用することができる。

	テーマ・学修内容	準備学習（予習・復習）
1	各自が選定し、大学が決定した実習園にて実習（2週間） 主に、以下の内容について実践し、学びを深める。 ①実習園について理解する。1日の流れや教育環境を把握する。保育以外の、幼稚園教諭としての仕事や、職員間の協働・連携について具体的に理解する。 ②配属クラスにおいて、担任教諭の助手的な立場で、教諭の援助や指導の具体的な内容と方法を知る。 ③配属クラスにおいて、幼児の発達や特性についての、個人差に応じた援助や指導の方法を知り、実践を通して学ぶ。 ④配属クラスにおいて、子どもたちの実態の理解に努め、実習園の指導計画を理解し、部分保育を担当する。 ⑤配属クラスにおいて、子どもたちの実態の理解を深め、実習園の指導計画を理解し、指導案を立案し、設定保育を実践する。 ⑥実習期間を通じて、実習園の様々な職員とコミュニケーションを図り、家庭や地域社会にも目を向け理解を図り、幼稚園の機能や幼稚園教諭の職務全般について学ぶ。	①実習事前打ち合わせ等での実習園の先生方からのオリエンテーションで、実習園について理解を深めておく ②実習記録の整理と、日誌や事例報告の作成をする ③配属クラスの担任のアドバイス等を謙虚に受け止め、反省に基づく改善に努め、実習の具体的目標の設定をする ④担任の指導のもと、子どもの実態の把握に努め、教材研究を行い、部分保育に向け準備する ⑤担任の指導のもと、子どもの実態の把握と理解に努め、指導案の作成、教材研究を行い、設定保育に向け準備する ⑥これまでの課題を振り返り、新たな目標を設定する。また提出物状況の確認や日誌等を見直しておく
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
定期試験	実施しない	

教材・参考文献

文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館
内閣府／文部科学省／厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

成績評価方法

受講態度（　　%）　小テスト（　　%）　授業内課題（　　%）
定期試験（　　%）　授業内発表（　　%）　その他【　　】（　　%）
自由記述（　実習園からの評価（80%）、課題等の提出状況（20%）　）

履修上の注意

実習を行うためには、併行して実習指導を履修しなければなりません。各自、希望する実習園を選定し、調整を行ったうえで内諾を得ることが必要となります。実習に当たっては、別途給食費等の費用が必要になることがあります。

科目名		担当者	
乳児保育Ⅰ		吉栁佳代子	
学科名	開講時期	授業方法	単位数
幼児教育学科	2学年　前期	講義	2単位
実務経験		他学科履修	科目等履修
		可	可

授業概要

現代における乳児を取り巻く環境について知り、教育・保育施設においての乳児保育の意義・目的・役割などを学ぶ。出生してから著しく成長発達していく乳児の生活や遊びの実態を知り、子どもに寄り添い「子どもの最善の利益」とはどのようなことなのかについて事例等を通して理解を深める。

到達目標・学修成果

乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割について理解する。保育所・乳児院等多彩な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。3歳未満時の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。乳児保育における職員間の連携・協働及び、保護者や地域の関係機関との連携について理解する。

	テーマ・学修内容	準備学習（予習・復習）
1	ガイダンス	「赤ちゃんとのかかわり」を読んでおく
2	乳児保育の目的と役割	教科書　第1回を読んでおく
3	乳児保育の背景や歴史的変遷、子育て支援、地域や家庭とのつながり	教科書　第2回を読んでおく
4	0・1・2歳児の発達	教科書　第3回を読んでおく
5	乳児（0歳児）の保育内容	教科書　第4回を読んでおく
6	1歳以上3歳未満児の保育内容と保育における配慮	教科書　第5回を読んでおく
7	乳児の生活と遊び、健康や安全	教科書　第6回を読んでおく
8	乳児の生活の基本、食事・睡眠と休息・排泄・着脱・清潔	教科書　第7回を読んでおく
9	乳児の遊びと適したおもちゃ	教科書　第8回を読んでおく
10	乳児保育の環境構成	教科書　第9回を読んでおく
11	乳児保育における全体的な計画と指導計画について	教科書　第10回を読んでおく
12	乳児保育における子育て支援、保護者への対応	教科書　第11回を読んでおく
13	乳児保育における保育士・家庭・地域での連帯について	教科書　第12回を読んでおく
14	一人ひとりを健やかにはぐくむ「子どもの最善の利益」について	教科書　第13回を読んでおく
15	まとめ	
定期試験	実施しない	

教材・参考文献

「講義で学ぶ、乳児保育」わかば社/「赤ちゃんとのかかわり」子どもと保育研究所ぷろほ/授業中に適宜資料を配布する【参考文献】『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』(内閣府、文科省、厚労省、チャイルド社)

受講態度（20%）　小テスト（30%）　授業内課題（30%）
定期試験（　　%）　授業内発表（20%）　その他【　　】（　　%）
自由記述（　　）

履修上の注意

科目名		担当者	
乳児保育Ⅱ		吉栁佳代子	
学科名	開講時期	授業方法	単位数
幼児教育学科	2 学年　後 期	演習	1 単位
実務経験		他学科履修	科目等履修
		可	可

授業概要

現代における乳児を取り巻く環境について知り、教育・保育施設においての乳児保育の意義・目的・役割など保育者の日々の実践に学ぶ。乳児の生活や遊びの実際を知り、事例等を通して検討する中で学び、子ども一人ひとりを大切にする乳幼児保育について理解を深める。

到達目標・学修成果

乳児保育の理念と歴史的変遷及び役割について学ぶ。保育所・乳児院等多彩な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。3歳未満児の発育・発達をについて学び、健やかな成長を支える3歳未満児の生活と遊びについて理解する。乳児保育の計画を作成し、保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等について学ぶ。乳児保育における保護者や関係機関との連携について学ぶ。

	テーマ・学修内容	準備学習（予習・復習）
1	ガイダンス	「子どものことばの発達が気になる保護者・保育者の方へ」を読んでおく
2	乳児保育の理念と歴史的変遷その役割と機能	教科書　第1・2回を読んでおく
3	保育所・乳児院における乳児保育	教科書　第3回を読んでおく
4	家庭的保育等における乳児保育	教科書　第4回を読んでおく
5	乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場	教科書　第5回を読んでおく
6	乳児保育における基本的な知識・技術に基づく援助や関わり	教科書　第6回を読んでおく
7	6ヶ月未満児の発達と保育内容	教科書　第7回を読んでおく
8	6ヶ月から1歳3ヶ月未満児の発達と保育内容	教科書　第8回を読んでおく
9	1歳3ヶ月から2歳未満児の発達と保育内容	教科書　第9回を読んでおく
10	2歳児の発達と保育内容、3歳以上児の移行期保育	教科書　第10回を読んでおく
11	保育課程に基づく指導計画の作成と観察・記録及び自己評価	教科書　第11回を読んでおく
12	個々の発達を促す生活と遊びの環境	教科書　第12回を読んでおく
13	職員間の協働と保護者とのパートナーシップ	教科書　第13回を読んでおく
14	保健・医療機関、家庭的保育、地域子育て支援等との連携・協働	教科書　第14回を読んでおく
15	まとめ	
定期試験	実施しない	

教材・参考文献

「演習で学ぶ、乳児保育」わかば社/「子どものことばの発達が気になる保護者・保育者の方へ」子どもと保育研究所ぷろほ/授業中に適宜資料を配布する【参考文献】『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』(内閣府、文科省、厚労省、チャイルド社)

受講態度（20%）　小テスト（30%）　授業内課題（30%）
定期試験（　　%）　授業内発表（20%）　その他【　　】（　　%）
自由記述（　　）

履修上の注意

科目名		担当者	
子ども家庭支援論		中禮 裕子	
学科名	開講時期	授業方法	単位数
幼児教育　学 科	2学年　前期	講義	2 単位
実務経験		他学科履修	科目等履修
保育士(公立保育所・療育センター・認可保育園・ひとり親支援員)		不可	可

授業概要

○講義(パワーポイント・配付プリント)　○ 教材(テキスト・配付資料・プレスリリース・DVDなど)
○ロールプレイ・発表 講義形式で進めつつ、単元毎にディスカッション、ロールプレイを行い「考える時間」を取り、発表や小レポートなども課します。

到達目標・学修成果

Ⅰ. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援意義と基本について理解する。
3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。
4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。

	テーマ・学修内容	準備学習(予習・復習)
1	1. 子ども家庭支援の意義と役割 (1)子ども家庭支援の意義と必要性	テキスト第1講とシラバスを熟読 予習復習の習慣
2	1. 子ども家庭支援の意義と役割 (2)子ども家庭支援の目的と機能	テキスト第2講熟読
3	2. 保育士による子ども家庭支援の意義と基本 (1)保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義	テキスト第5講熟読
4	2. 保育士による子ども家庭支援の意義と基本 (2) 子どもの育ちの喜びの共有	テキスト第6講熟読
5	2. 保育士による子ども家庭支援の意義と基本 (3) 保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援	テキスト第7講熟読
6	2. 保育士による子ども家庭支援の意義と基本 (4) 保育士に求められる基本態度(受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等)	テキスト第8講熟読
7	2. 保育士による子ども家庭支援の意義と基本 (5) 家庭状況に応じた支援	テキスト第9講熟読
8	2. 保育士による子ども家庭支援の意義と基本 (6) 地域の資源活用と自治体・関係機関等との連携・協力	テキスト第10講熟読
9	3. 子育て家庭に対する支援の体制 (1) 子育て家庭の福祉を図るための社会資源	テキスト第4講熟読
10	3. 子育て家庭に対する支援の体制 (2)子育て支援体制・次世代育成支援施策の推進	テキスト第3講熟読
11	4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (1)子ども家庭支援の内容と対象	テキスト第11講熟読
12	4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (2)保育所等を利用する子どもの家庭への支援	テキスト第12講熟読
13	4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (3)地域の子育て家庭への支援	テキスト第13講熟読
14	4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (4)要保護児童等及びその家庭に対する支援	テキスト第14講熟読
15	4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (5)子ども家庭支援に関する現状と課題	テキスト第15講熟読
定期試験	定期試験	

教材・参考文献

松原康雄・村田典子・南野奈津子編集『子ども家庭支援論』中央法規出版(株)
厚生労働省編『改訂保育所保育指針』(株)フレーベル館　厚生労働省編『改訂保育所保育指針解説』(株)フレーベル館
内閣府 文部科学省 厚生労働省『改訂幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』(株)フレーベル館

成績評価方法

受講態度 (　10　%)　　小テスト (　10　%)　　授業内課題 (　10　%)
定期試験 (60　%)　　授業内発表 (　10　%)　　その他【　　】(　　%)
自由記述 (　　)

履修上の注意

私語厳禁・携帯電話のマナー厳守

科目名		担当者	
社会的養護Ⅰ		中村秀一	
学科名	開講時期	授業方法	単位数
幼児教育学科	2学年　後期	講義	2　単位
実務経験		他学科履修	科目等履修
福岡県社会福祉協議会勤務(昭和60年～平成13年12月)		可	可

授業概要

児童養護の目的は、健全な発達の保障にある。この目的を達成する児童養護の原理性について、社会的養護の意義と果たすべき責任と役割について学習をしていく。

到達目標・学修成果

児童の健全育成のために社会的養護の果たすべき役割について、具体的に機関や人的な専門性を知識として得ることができる。

	テーマ・学修内容	準備学習(予習・復習)
1	社会的養護の理念と概念 児童の最善の利益を学習し、社会的養護の基本原則・理念を考察する	児童の利益とはなにかを自分の意見として整理しておく
2	社会的養護の変遷 イギリスを中心に時代や国の事情による児童観の変遷	テキストを一読しておくこと
3	社会的養護の変遷 わが国の児童観と施策の変遷	テキストを一読しておくこと
4	児童家庭福祉と社会的養護 児童の発達保障の家庭福祉と社会的養護の関係性	家庭支援の一助である社会的養護の位置付けを復習しておく
5	児童の権利養護と社会的養護 社会的養護と人権・権利の重要性、保育士等の倫理と責務	子どもの権利条約の権利性を復習しておく
6	児童養護の制度と法体系 社会的養護の制度の根拠となる法体系について	児童福祉法10－12条を読んでおくこと
7	社会的養護と仕組みと実施体系 社会的養護の対象、都道府県と市町村の役割と連携について	福祉事務所と児童相談所についてテキストで確認しておく
8	家庭的養護 里親制度について	里親の種類について調べておく
9	施設養護の意義と役割 育児環境等に問題がある児童のための施設について	該当施設の種類について調べておく
10	施設養護の意義と役割 心身に障害等がある児童のための施設について	該当施設の種類について調べておく
11	施設養護の意義と役割 児童健全育成のための施設について	該当施設の種類について調べておく
12	社会的養護の専門職 養護の専門性と他職種との連携	施設の専門職の役割について整理すること
13	社会的養護の基本原理と自立支援 個別化、集団力動性活用等について	施設の機能と課題を復習すること
14	施設等の運営管理 法人、施設長、職員等の資質と施設運営の方向性について	児童福祉施設の運設備及び営に関する基準に目を通しておく
15	社会的養護の現状と課題 養護における倫理性の確立、他	社会的養護の課題について理解すること
定期試験	定期試験	

教材・参考文献

児童育成協会監修「社会的養護Ⅰ」中央法規

成績評価方法

受講態度（　10%）　小テスト（　%）　授業内課題（　20%）
定期試験（　70%）　授業内発表（　%）　その他【　】（　%）
自由記述（　）

履修上の注意

卒業必修　保育士資格必修　社会福祉主事任用資格

科目名		担当者	
社会的養護II		岡田健一	
学科名	開講時期	授業方法	単位数
幼児教育学科	2 学年 後期	演習	1 単位
実務経験		他学科履修	科目等履修
		可	可

授業概要

家庭での養育を受けられない子ども達は、社会的養護によって守られ、生活をしている。本授業では、社会的養護の理念と施設養護や他の社会的養護の実際を学ぶと共に、施設で生活している子ども達の日常生活を支援し、成長を促していく具体的な方法と技術について、理解を深める。

到達目標・学修成果

1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する
2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する
3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する
4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する
5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する

	テーマ・学修内容	準備学習(予習・復習)
1	オリエンテーション:社会的養護における子どもの理解	配布プリントを復習する
2	社会的養護の実際:施設養護の生活特性及び実際(1)	配布プリントを復習する
3	社会的養護の実際:施設養護の生活特性及び実際(2)	配布プリントを復習する
4	社会的養護の実際:家庭養護の生活特性及び実際	配布プリントを復習する
5	児童の権利擁護(1)	児童福祉施設における子どもの人権侵害事例を調べてくる
6	児童の権利擁護(2)	児童福祉施設における子どもの人権侵害事例を調べてくる
7	社会的養護の内容:日常生活支援、治療的支援、自立支援	配布プリントを復習する
8	日常生活支援に関する事例分析	教科書第9章を復習する
9	治療的支援に関する事例分析	教科書第10章を復習する
10	自立支援に関する事例分析	教科書第11章を復習する
11	個別の支援計画の作成、記録および自己評価(1)	教科書第8章を予習する
12	個別の支援計画の作成、記録および自己評価(2)	教科書第8章を復習する
13	社会的養護に関わる専門的技術	教科書第13・14章を予習する
14	今後の課題と展望	配布プリントを復習する
15	まとめ:学修の到達度評価	授業で学んだことをまとめ、理解を確認する
定期試験		

教材・参考文献

上田征三編著(2018):実践研究や事例から学ぶ社会的養護II. 大学図書出版.

成績評価方法

受講態度 (%) 小テスト (%) 授業内課題 (50 %)
定期試験 (%) 授業内発表 (%) その他【 】(%)
自由記述 (学修の到達度評価 50%)

履修上の注意

科目名		担当者	
特別支援の理解		岡田健一・牧野桂一	
学科名	開講時期	授業方法	単位数
幼児教育学科	2 学年 前期	演習	1 単位
実務経験		他学科履修	科目等履修
		可	可

授業概要

この授業は、特別支援教育および障害児保育等、特別な支援が必要な子どもへの関わり方について学ぶ授業である。発達障害や、軽度知的障害をはじめとする様々な障害等を生きる子どもが、園での生活で直面している学習上または生活上の困難を理解するとともに、子どもが主体的に達成感を持ちながら学び、生きる力を身につけていく支援ができるよう、必要な知識や支援方法を理解する。合わせて、他の職員や関係機関との連携についても理解を深める。

到達目標・学修成果

1. 特別支援教育・障害児保育の基本的な考え方と制度を理解できている
2. 特別な支援が必要な子どもとその支援方法が理解できている
3. 保護者支援や他機関との連携について、最低限の知識を身につけている

	テーマ・学修内容	準備学習(予習・復習)
1	オリエンテーション～障害とは何か？～(担当:岡田)	障害のある方とか関わった経験を思い出しておく
2	障害児保育を支える理念や歴史的変遷(担当:岡田)	配布資料、テキストを読む
3	特別支援教育のあり方(担当:岡田)	配布資料、テキストを読む
4	特別の支援を必要とする子ども理解と支援方法1:知的障害・ダウン症(担当:牧野)	配布資料、テキストを読む
5	特別の支援を必要とする子ども理解と支援方法2:ADHD、LD(担当:牧野)	配布資料、テキストを読む
6	特別の支援を必要とする子ども理解と支援方法3:ADHD、LD(担当:牧野)	配布資料、テキストを読む
7	特別の支援を必要とする子ども理解と支援方法4:ASD(担当:牧野)	配布資料、テキストを読む
8	特別の支援を必要とする子ども理解と支援方法5:ASD(担当:牧野)	配布資料、テキストを読む
9	特別の支援を必要とする子ども理解と支援方法6:身体障害(担当:牧野)	配布資料、テキストを読む
10	特別の支援を必要とする子ども理解と支援方法7:身体障害、病弱(担当:牧野)	配布資料、テキストを読む
11	特別の支援を必要とする子ども理解と支援方法8:性別違和、母国語、貧困(担当:牧野)	配布資料、テキストを読む
12	特別支援のアセスメント(担当:牧野)	配布資料、テキストを読む
13	特別支援の実際(担当:牧野)	配布資料、テキストを読む
14	専門家・専門機関との連携(担当:岡田)	配布資料、テキストを読む
15	家庭との連携と保護者支援(担当:岡田)	配布資料、テキストを読む
定期試験	実施せず	

教材・参考文献

井村圭壮・今井慶宗(編著)(2016):障がい児保育の基本と課題. 学文社.
牧野桂一(2013):受けとめる保育. エイデル研究所.

成績評価方法

受講態度 (%) 小テスト (%) 授業内課題 (50 %)
定期試験 (%) 授業内発表 (%) その他【 】(%)
自由記述 (牧野先生レポート＋授業内試験 50%)

履修上の注意

・集中講義を含む
・牧野先生レポートで使用するテキスト:牧野桂一(2004):子らのいのちに照らされて. 樹心社.

科目名		担当者	
保育心理演習		河村陽子・岡田健一	
学科名	開講時期	授業方法	単位数
幼児教育学科(専攻科)	2 学年 前期	演習	1 単位
実務経験		他学科履修	科目等履修
		可	可

授業概要

(最初の文)本科目は、保育心理士(二種)養成課程の科目である。保育心理士としての基礎的概念を理解し、子どもの気質的、または環境的背景の観察や把握、また、支援方法について学ぶ。合わせて、大人にとって「問題行動」と思える子どもの言動を深く理解し、その子に合わせた支援を考える練習を行う。

到達目標・学修成果

1. プレイセラピーの基本について理解できる
2. 子どもの内的イメージへの理解を深め、子どもの心やその表現に寄り添う姿勢を身につけることができる
3. 「問題行動」を子ども側から理解し、子どものメッセージを受け取ることができる
4. 個別支援実習に向けた準備が整う

	テーマ・学修内容	準備学習(予習・復習)
1	保育とセラピー	配布資料を復習する
2	遊戯療法の基本	アクスラインの8原則について復習する
3	保育における遊戯療法の活用	子どもの頃に夢中になった遊びを考えておく
4	こころの表現としての表現療法	配布資料を復習する
5	事例で学ぶ表現療法①サンドプレイセラピー	象徴表現について復習する
6	事例で学ぶ表現療法②アートセラピー	象徴表現について復習する
7	体験で学ぶ表現療法①コラージュ療法	配布資料を復習する
8	体験で学ぶ表現療法②クレパス画・スクイグル	配布資料を復習する
9	子どもの「問題行動」の理解	子どもの「問題行動」の例を探してくる
10	「問題行動」場面における子どもの心の理解1	「問題行動」場面における子どもの理解を考えてくる
11	「問題行動」場面における子どもの心の理解2	「問題行動」場面における子どもの理解を考えてくる
12	子ども理解に合わせた日常での支援の工夫1	支援の工夫を自分でまとめる
13	子ども理解に合わせた日常での支援の工夫2	支援の工夫を自分でまとめる
14	事例検討:ケースの見立てと個別支援計画	事例を読んでくる
15	個別支援実習に向けて	個別支援実習の準備を整える
定期試験		

教材・参考文献

山田真理子(2004):子ども・こころ・そだち―機微を生きる―. エイデル研究所.

成績評価方法

受講態度 (10%) 小テスト (%) 授業内課題 (70%)
定期試験 (%) 授業内発表 (%) その他【 】(%)
自由記述 (教科書レポート20%)

履修上の注意

科目名		担当者	
保育人間学		吉元信暁	
学科名	開講時期	授業方法	単位数
幼児教育学科	2学年　前期	講義	1　単位
実務経験		他学科履修	科目等履修
		可	可

授業概要

真宗、仏教に関する基本的な用語を学びつつ、真宗保育の理念として大谷保育協会が掲げる「本願に生き、ともに育ちあう保育」について共に考えていく。

到達目標・学修成果

・真宗保育とは何かという課題をもつ。 ・真宗、仏教に関する基本的な用語を理解する。 ・保育とは、人間とは何かについて考えることができる。

	テーマ・学修内容	準備学習（予習・復習）
1	人間として誕生した意味	テキストを読む ノート整理
2	命の連続性と尊厳	テキストを読む ノート整理
3	幸せの物差し	テキストを読む ノート整理
4	私とは何か	テキストを読む ノート整理
5	ともに生きともに育ちあう	テキストを読む ノート整理
6	保育所・幼稚園・こども園の特性を生かした支援	テキストを読む ノート整理
7	悩みを宝物として	テキストを読む ノート整理
8	学び続ける	これまでの学習内容の整理

教材・参考文献

『真宗保育のカリキュラム入門』

成績評価方法

受講態度（ 40 %）　小テスト（ 60 %）　授業内課題（　　%）
定期試験（　　%）　授業内発表（　　%）　その他【　　】（　　%）
自由記述（　　）

履修上の注意

科目名		担当者	
保育実習I(保育所)		村上有希・宮地あゆみ・岡田健一	
学科名	開講時期	授業方法	単位数
幼児教育学科	2学年　前期	実習	2単位
実務経験		他学科履修	科目等履修
		不可	可

授業概要

保育実習は、それまでに習得した教科全体の知識、技能を基盤とし、これらを総合的に実践す応用力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とした科目である。
保育実習I(保育所)では、認可保育園で90時間(原則12日間)以上の保育実習を行う。

到達目標・学修成果

1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。
3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。
4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

	テーマ・学修内容	準備学習(予習・復習)
1	1. 保育所の役割と機能	
2	(1)保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり	
3	(2)保育所保育指針に基づく保育の展開	
4	2. 子どもの理解	
5	(1)子どもの観察とその記録による理解	
6	(2)子どもの発達過程の理解 (3)子どもへの援助や関わり	
7	3. 保育内容・保育環境	
8	(1)保育の計画に基づく保育内容	
9	(2)子どもの発達過程に応じた保育内容 (3)子どもの生活や遊びと保育環境	
10	(4)子どもの健康と安全	
11	4. 保育の計画・観察・記録	
12	(1)全体的な計画と指導計画及び評価の理解 (2)記録に基づく省察・自己評価	
13	5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理	
14	(1)保育士の業務内容	
15	(2)職員間の役割分担や連携・協働 (3)保育士の役割と職業倫理	
定期試験		

教材・参考文献

無藤隆・汐見稔幸(編)(2017):イラストで読む！ 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はやわかりBOOK. 学陽書房.
太田光洋(編)(2018):保育実習・幼稚園教育実習. 保育出版会.
小櫃智子(編著)(2015):実習日誌・実習指導案　パーフェクトガイド. わかば社.
植田光子(2006):手あそび百科. ひかりのくに.
幼少年教育研究所(2009):新版 遊びの指導. 同文書院.

成績評価方法

受講態度（　20%）　小テスト（　%）　授業内課題（　%）
定期試験（　%）　授業内発表（　%）　その他【　園評価　】（　50%）
自由記述（　実習記録　30%　）

履修上の注意

・保育実習指導 I (保育所)と合わせて履修すること。合わせて単位認定を行う。
・保育実習 I (保育所)には、実習のための費用が必要となる(細菌検査、給食の実費等)。
※科目等履修の場合は、授業以外の面談等を必要とすることがある。

科目名		担当者	
保育実習I(施設)		岡田健一・宮地あゆみ・村上有希	
学科名	開講時期	授業方法	単位数
幼児教育学科	2学年 前期	実習	2 単位
実務経験		他学科履修	科目等履修
		可	可

授業概要

保育実習は、それまでに習得した教科全体の知識、技能を基盤とし、これらを総合的に実践す応用力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とした科目である。
保育実習I(施設)では、保育所をのぞく児童福祉施設等での保育実習を行う。

到達目標・学修成果

1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する
2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める
3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する
4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する

	テーマ・学修内容	準備学習(予習・復習)
1	1. 施設の役割と機能	
2	(1)施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり	
3	(2)施設の役割と機能	
4	2. 子どもの理解	
5	(1)子どもの観察とその記録 (2)個々の状態に応じた援助や関わり	
6	3. 施設における子どもの生活と環境	
7	(1)計画に基づく活動や援助 (2)子どもの心身の状態に応じた生活と対応	
8	(3)子どもの活動と環境 (4)健康管理、安全対策の理解	
9	4. 計画と記録	
10	(1)支援計画の理解と活用	
11	(2)記録に基づく省察・自己評価	
12	5. 専門職としての保育士の役割と倫理	
13	(1)保育士の業務内容 (2)職員間の役割分担や連携	
14	(3)保育士の役割と職業倫理	
15	※実習時間は、実習受け入れ施設の実情に配慮しながら、90時間(10日間)以上とする	
定期試験		

教材・参考文献

保育福祉小六法編集委員会(編)(2020):保育福祉小六法2020年版. みらい.
小櫃智子(編著)(2015):実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド. わかば社.
駒井美智子(編著)(2014):施設実習ガイドー保育者として成長するための事前事後学習ー. 萌文書林.

成績評価方法

受講態度 (%) 小テスト (%) 授業内課題 (%)
定期試験 (%) 授業内発表 (%) その他【 】(%)
自由記述 (施設評価 50% 大学評価50%)

履修上の注意

・対応する実習指導科目とセットで履修すること。また、一方の単位が認められない場合、もう一方の単位も不合格あるいは保留とする
・実習指導で期限内の書類の提出がない場合や課題がクリアできない場合、欠席が3回以上の場合は、実習を開始しない
・抗体検査や予防接種、細菌検査等、実習受け入れに必要な準備が整わない場合は、実習を開始しない
・実習には、実習費および、食事代等の実費が必要となる
・大学が実習受け入れ施設を確保するため、科目等履修、他学科履修は受け入れられないことがある

科目名		担当者	
保育実習Ⅱ		宮地あゆみ　岡田健一　村上有希	
学科名	**開講時期**	**授業方法**	**単位数**
幼児教育	2 学年　前期	演習	2　単位
実務経験		**他学科履修**	**科目等履修**
それぞれの教員のシラバスを見ること		不可	可

授業概要

保育実習では、認可保育所での実習をとおして、これまで習得した知識や技術を基盤とし、総合的に実践する力を養うことで、理論と実践の関係について習熟させることを目的としている。

到達目標・学修成果

1. 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める 。
2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。
3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。
4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。
6. 実習における 自己の課題を明確化する。

	テーマ・学修内容	準備学習（予習・復習）
1	1. 保育所の役割や機能の具体的展開 (1)養護と教育が一体となって行われる保育	
2	(2)保育所の社会的役割と責任	
3	2. 観察に基づく保育の理解 (1)子どもの心身の状態や活動の観察	
4	(2)保育士等の援助や関わり (3)保育所の生活の流れや展開の把握	
5	3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携	
6	(1)環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育 (2)入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援	
7	(3)関係機関や地域社会との連携・協働	
8	4. 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 (1)全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解	
9	(2)作成した指導計画に基づく保育の実践と評価	
10	5. 保育士の業務と職業倫理 (1)多様な保育の展開と保育士の業務	
11	(2)多様な保育の展開と保育士の職業倫理	
12	6. 自己の課題の明確化	
13		
14		
15		
定期試験		

教材・参考文献

『イラストで読む！幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はやわかりBOOK』無藤・汐見（著編）(2017) 学陽書房
『保育実習・幼稚実習』太田光洋(2018)保育出版会
『手遊び百科』植田　編 (2006) ひかりのくに
『遊びの指導』幼少年教育研究所(2009) 同文書院

成績評価方法

自由記述 （園評価50%　大学評価50%　）

履修上の注意

対応する実習指導と一緒に履修すること。実習指導と両方での単位取得となる。必要書類等の期限遅れや未提出がないようにすること。遅刻や欠席をせず、実習にふさわしい身だしなみで参加すること。実習費や交通費および食事代などの実費がある。

科目名		担当者	
個別支援実習		岡田健一・河村陽子	
学科名	開講時期	授業方法	単位数
幼児教育学科(専攻科)	2 学年 前期	実習	1 単位
実務経験		他学科履修	科目等履修
		可	可

授業概要

本科目は、保育心理士(二種)養成課程の科目である。児童福祉施設等において約2週間の実習を行い、対象児を1名決めて理解を深めるとともに、個別の支援の計画を立てて、可能であれば実際に実施する。

到達目標・学修成果

1. 個別の支援が必要な子どもを見つけ、対象児の理解を深めることができる
2. 対象児の理解に基づき、個別支援の計画を立てることができる
3. 可能であれば、支援の計画を実施し、支援の効果を評価できる

	テーマ・学修内容	準備学習(予習・復習)
1		
2		
3		
4		
5		
6	(実習前半) ・個別の支援を必要としている子どもを選び、対象児とする ・対象児の観察、職員への質問(守秘義務に配慮)を通して、対象児の情報を集める	
7		
8	(訪問指導) ・科目担当者の訪問指導(巡回指導)を受ける ・訪問指導では、集めた資料と支援の計画を伝え、助言を受ける	
9		
10	(実習後半) ・職員と相談しながら、支援の計画を決める ・可能な範囲で、計画した支援を実施する	
11		
12		
13		
14		
15		
定期試験		

教材・参考文献

岡田健一(2020):個別支援実習ワークブック.

成績評価方法

受講態度 (%) 小テスト (%) 授業内課題 (%)
定期試験 (%) 授業内発表 (%) その他【 】(%)
自由記述 (実習施設評価 30% 大学評価 70%)

履修上の注意

・個別支援実習指導とセットで履修すること。また、一方の単位が認められない場合、もう一方の単位も不合格とする
・別途行う実習準備に参加しない場合や、期限内の書類の提出がない場合、課題がクリアできない場合は、実習を開始しない
・抗体検査や予防接種、細菌検査等、実習受け入れに必要な準備が整わない場合は、実習を開始しない
・実習には、実習費および、食事代等の実費が必要となる

科目名		担当者	
保育実習指導I(保育所)		村上有希・宮地あゆみ・岡田健一	
学科名	**開講時期**	**授業方法**	**単位数**
幼児教育学科	1学年　後期、2学年　前期	演習	1単位
実務経験		**他学科履修**	**科目等履修**
		不可	可

授業概要

保育実習は、それまでに習得した教科全体の知識、技能を基盤とし、これらを総合的に実践す応用力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とした科目である。
保育実習指導Ⅰ(保育所)では、保育実習I(保育所)に必要な実習指導を行う。

到達目標・学修成果

1. 保育実習の意義・目的を理解する。
2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。
3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。

	テーマ・学修内容	準備学習(予習・復習)
1	オリエンテーション	
2	保育実習の意義　(2)実習の目的	
3	保育実習の意義　(3)実習の概要、実習先との手続きについて	
4	実習の内容と課題の明確化　(2)実習の内容	
5	実習の内容と課題の明確化　(3)実習の課題、実習目標の作成について	
6	実習に際しての留意事項　(2)子どもの人権と最善の利益の考慮	
7	実習に際しての留意事項　(3)プライバシーの保護と守秘義務	
8	実習に際しての留意事項　(3)実習生としての心構え、事前打ち合わせについて	
9	実習の計画と記録　(1)実習における計画と実践	
10	実習の計画と記録　(2)実習における計画と実践	
11	実習の計画と記録　(2)実習における観察、記録及び評価	
12	実習の計画と記録　(2)実習における観察、記録及び評価	
13	事後指導における実習の総括と課題の明確化　(1)実習の総括と自己評価	
14	事後指導における実習の総括と課題の明確化　(2)課題の明確化	
15	事後指導における実習の総括と課題の明確化　(2)課題の明確化	
定期試験		

教材・参考文献

無藤隆・汐見稔幸(編)(2017):イラストで読む！ 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はやわかりBOOK. 学陽書房.
太田光洋(編)(2018):保育実習・幼稚園教育実習. 保育出版会.
小櫃智子(編著)(2015):実習日誌・実習指導案　パーフェクトガイド. わかば社.
植田光子(2006):手あそび百科. ひかりのくに.
幼少年教育研究所(2009):新版 遊びの指導. 同文書院.

成績評価方法

受講態度 (　30 %)　　小テスト (　　%)　　授業内課題 (　　%)
定期試験 (　　%)　　授業内発表 (　　%)　　その他【 実習に関する手続き 】(　30%)
自由記述 (事前学習 20% 、 事後学習 20%)

履修上の注意

・保育実習Ⅰ(保育所)と合わせて履修すること。合わせて単位認定を行う。
・必ず出席すること。実習に関する手続きを含む授業内容のため、欠席せざるを得ない事情がある場合は担当者へ連絡すること。

科目名		担当者	
保育実習指導I(施設)		岡田健一・宮地あゆみ・村上有希	
学科名	開講時期	授業方法	単位数
幼児教育学科	1学年 後期 、2学年 前期	演習	1 単位
実務経験		他学科履修	科目等履修
		可	可

授業概要

保育実習は、それまでに習得した教科全体の知識、技能を基盤とし、これらを総合的に実践す応用力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とした科目である。
保育実習指導I(施設)では、保育実習I(施設)に必要な実習指導を行う。

到達目標・学修成果

1. 保育実習の意義・目的を理解する
2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする
3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する
4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする

	テーマ・学修内容	準備学習(予習・復習)
1	オリエンテーション 保育実習の意義・目的と概要、実習指導授業の進め方	授業で説明されたルールを理解し、疑問点があれば質問を考えておく
2	実習施設の理解:発表準備	教科書「施設実習ガイド」の該当する部分を読んでおく
3	実習施設の理解:発表	発表準備を行う
4	実習日程の把握、必要書類の確認と整理	自分の実習予定を確認する
5	実習施設の基本情報(目的、対象、設置基準等)の確認	基本情報を覚えてくる
6	実習に際しての留意事項 倫理綱領、子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務、観察の視点、記録および評価	教科書「施設実習ガイド」の該当する部分を読んでおく
7	実習目標の作成1	実習目標を立てる
8	介護の体験	学んだことを復習しておく
9	実習目標の作成2	実習目標を完成させる
10	直前指導、実習生としての心構え	実習準備の総まとめを行う
11	児童福祉施設等実習の事後指導1 実習の統括と自己評価	実習日誌等で自身の実習の振り返りをしておく
12	児童福祉施設等実習の事後指導2 実習の統括と自己評価、課題の明確化	報告会のレポートを作成する
13	児童福祉施設等実習の事後指導3 実習の統括と自己評価、課題の明確化	報告会のレポートを作成する
14	児童福祉施設等実習のまとめ(AM報告会)	報告会で学んだことをまとめる
15	児童福祉施設等実習のまとめ(AM報告会)	報告会で学んだことをまとめる
定期試験		

教材・参考文献

保育福祉小六法編集委員会(編)(2020):保育福祉小六法2020年版. みらい.
小櫃智子(編著)(2015):実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド. わかば社.
駒井美智子(編著)(2014):施設実習ガイド－保育者として成長するための事前事後学習－. 萌文書林.

成績評価方法

態度・マナー(30%)、手続き(30%)、事前学習(20%)、事後学習(20%)
欠席3回以上で実習を中止し、授業評価は「D」あるいは「喪失」となる
※その他、評価や実習中止の細かいルールの詳細は、初回授業で説明する

履修上の注意

・対応する実習科目とセットで履修すること。また、一方の単位が認められない場合、もう一方の単位も不合格あるいは保留とする
・評価のルールや、実習中止のルールが複雑であるため、初回授業には必ず出席し、ルールを理解すること。以降の授業は、ルールが理解できているものとして進める

科目名		担当者	
保育実習指導Ⅱ		宮地あゆみ　岡田健一　村上有希	
学科名	開講時期	授業方法	単位数
幼児教育	2 学年　前期	実習	1　単位
実務経験		他学科履修	科目等履修
それぞれの教員のシラバスを見ること		不可	可

授業概要

保育実習では、認可保育所での実習をとおして、これまで習得した知識や技術を基盤とし、総合的に実践する力を養うことで、理論と実践の関係について習熟させることを目的としている。

到達目標・学修成果

1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。
2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

	テーマ・学修内容	準備学習（予習・復習）
1	オリエンテーション 保育実習の意義と目的、保育実習指導Ⅱの進め方について	シラバスを確認しておくこと
2	子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解	教科書などを読んでおくこと
3	子どもの保育と保護者支援	教科書などを読んでおくこと
4	子ども（利用者）の状態に応じた適切な関わり	教科書などを読んでおくこと
5	保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践	課題作成
6	保育実習の目標の明確化	課題作成
7	保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善	課題作成
8	保育の知識・技術を活かした保育実践と指導計画の作成	課題作成
9	実習の心構えと身だしなみ	課題作成
10	保育士の専門性と職業倫理	課題作成
11	実習の総括と自己評価	課題作成
12	課題の明確化Ⅰ	課題作成
13	課題の明確化Ⅱ	課題作成
14 15	保育実習報告会	発表の準備をしておくこと
定期試験		

教材・参考文献

『イラストで読む！幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はやわかりBOOK』無藤・汐見（著編）（2017）学陽書房
『保育実習・幼稚実習』太田光洋（2018）保育出版会
『手遊び百科』植田　編（2006）ひかりのくに
『遊びの指導』幼少年教育研究所（2009）同文書院

成績評価方法

受講態度（　30 %）　小テスト（　　%）　授業内課題（　　%）
定期試験（　　%）　授業内発表（　　%）　その他【 実習に関する手続き 】（　30%）
自由記述（ 事前学習 20% 、事後学習 20% ）

履修上の注意

対応する実習指導と一緒に履修すること。実習と両方での単位取得となる。必要書類等の期限遅れや未提出がないようにすること。遅刻や欠席をせず、実習にふさわしい身だしなみで参加すること。オリエンテーションで、必要事項を説明するため必ず参加すること。

科目名		担当者	
個別支援実習指導		岡田健一・河村陽子	
学科名	開講時期	授業方法	単位数
幼児教育学科(専攻科)	2 学年 後期	演習	1 単位
実務経験		他学科履修	科目等履修
		可	可

授業概要

本科目は、保育心理士(二種)養成課程の科目である。個別支援実習での取り組みを、事例検討という形で振り返りながら、保育心理士としての子ども理解の視点と具体的な支援を学ぶ。単位取得を希望する学生は、自分の個別支援実習の様子を発表すること。

到達目標・学修成果

1. 実習での取り組みを事例レポートの形でまとめ、報告できる
2. 対象児の生活の様子から、対象児の願いとニーズを理解することができる
3. 対象児の安心安全な生活保証し、成長を促す支援を考えることができる
4. 支援者としての自分を振り返り、自己の課題と成長の方法を明らかにする

	テーマ・学修内容	準備学習(予習・復習)
1	オリエンテーション	事例レポート作成方法を理解し、レポートを作成する
2	事例検討1	事例報告者: 授業前に事例レポートを準備する。事例検討後は、教員・受講者のコメントを振り返りながら、最終レポートの準備をする 事例検討参加者: 事例報告を聞き、自分が感じたこと、学んだことをまとめる
3	事例検討2	
4	事例検討3	
5	事例検討4	
6	事例検討5	
7	事例検討6	
8	事例検討7	
9	事例検討8	
10	事例検討9	
11	事例検討10	
12	事例検討11	
13	事例検討12	
14	事例検討13	
15	まとめ	
定期試験		

教材・参考文献

成績評価方法

受講態度 (%) 小テスト (%) 授業内課題 (%)
定期試験 (%) 授業内発表 (40 %) その他【 】(%)
自由記述 (事例検討参加レポート 30% 最終レポート 30%)

履修上の注意

・個別支援実習とセットで履修すること。また、一方の単位が認められない場合、もう一方の単位も不合格とする
・単位の取得には、事例報告が必要。また、他の人の発表の日も、事例検討に休まずに出席すること
・単位取得希望者(事例報告者)が13名を超える場合は、受講人数の制限や、15回を超える開講を行うことがある